

Team-Teachingの基礎・基本4

Team-Teaching with a One-Shot ALT

渡邊時夫 Watanabe Tokio
(清泉女学院大学)

1 はじめに

従来 One-Shot は、教員も ALT も比較的軽視する傾向があるのではないかと、思う。しかし、担当教員が One-Shot について、その活用法と真剣に取り組んでいる場合には、相当の効果を上げているのも事実である。

今回は筆者の見聞きした経験の中から具体例を挙げながら、One-Shot を効果的にするための考え方を述べてみたい。

2 何を期待すべきか—ALT との合意の必要性

One-Shot では、生徒と ALT が初めて出会うことが普通であるため、「簡単な自己紹介とゲーム」をやって終わり、という内容が多いようである。自己紹介の内容にもよるが、今後はもっと日常の授業と噛み合うような内容にしたいものである。

そこで、ALT が来校する前にまず、次の①～⑤をしっかりと伝えてほしい。

- ①現在、教科書のどのレッスンを教えているかを伝えること。(生徒の英語のレベルを的確につかんでもらう)
- ②できれば国際理解(例えば、ALT の出身国の生活や文化の理解)につながるようなテーマを選び、生徒に英語でする説明を理解してもらえるように準備をしていくこと。(絵、写真、ビデオ、スライドなどにも配慮)
- ③生徒が ALT の英語を聞いて概要が理解できるように、英語の説明を工夫していくこと。生徒にとって「Authentic English を聞いて理解する」貴重な1時間であることを理解してほしいこと。
- ④発音の矯正や練習などは重視していないこと。
- ⑤生徒にも多少発言の機会を与えること。ただし、

生徒の発話は one-word utterance のよう simple なものでもよいこと。

One-Shot ALT の場合は、複数の学校を訪問するのが普通であるため、上記の方針に沿った授業を重ねることによって、授業内容がかなり改善されていくであろう。

3 内容についての具体例

(1) 教科書のテーマに関係した内容

生徒の英語力の実態を理解してもらうために、生徒が現在勉強している Lesson を ALT に知らせ、その課と関連したテーマを選んで話していただくよう事前に打ち合わせることが望ましい。

例えば、NEW CROWN, BOOK 2 LESSON 5 “Speech—‘My Dream’” では、次のような扱いを考えてみた。

ALT には、以下のような内容を伝える。

- ①教科書では、久美が I want to be a tree doctor. という speech をする。生徒に speech の内容を一層理解させるために、私(教員)も子ども時代に tree doctor になりたかった、という設定で、speech (原稿は省略)をした。
- ②あなたには、私の作品の例をまねて、I want to be an animal doctor. というタイトルで speech の原稿を作ってほしい。
- ③ALT には、speech するだけでなく、speech 原稿を印刷して、生徒に読ませるようにお願いしたい。聞いて理解したことを文字で確認すると生徒の英語理解が深まるだろう。
- ④ALT は、例えば、“I want to be an animal doctor. Why? First, many people in my country keep pets. Their pets often become sick.” といった出だしで speech をしてくれるだろう。英語の

理解とともに、ALT の出身国の様子もわかれば期待通りの授業となる。

(2) 生きた文化を体現する授業

(a) Scotland 出身の ALT

Scotland 出身の ALT の授業は次のように進んでいた。ALT は、子どもの頃よく遊んだゲームを紹介したあと、JTE (女性) に次のように質問した。

ALT: When you were about ten years old, what did you play?

JTE: I played *otedama*. (She took some *otedama* out of her bag.)

ALT: Oh, juggling. Yes, I played juggling too.

JTE: You call *otedama* juggling in your country? I thought *otedama* is a Japanese game. Big surprise, isn't it?

生徒も、驚いて、ALT のことばを疑った。

Hands up if you think I can play with three.

ALT が、3 個のお手玉を上手に使って遊ぶことなど、考えられなかったのも、誰も手をあげなかった。しかし、ALT は、見事な技を見せた。3 つどころか、5 つを使った技も見事だった。意外な事実を目の当たりに知った生徒は興奮気味だった。さらに、ALT は、日本のお手玉の中身は、小豆だけれど、Scotland では、羊の骨を使っていることなどの説明に発展していった。ALT の最後のことばは、次の通りだった。

(haggis, tartan などの写真を見せながら) You see, sheep is so important in our country that sheep is used for food, clothes, bag, hats, shoes and everything, even for children's toys.

JTE との事前の打ち合わせにより、テーマを確定し、双方が実物や絵などの教材を用意して作り上げた見事な授業である。生徒は、たっぴりと英語のインプットを浴び、しかも、補助教材やジェスチャーなどの助けを借りて十分に理解でき、Scotland について新たな事実を学ぶことができた。

なお、ALT が "Something about life in Scotland" という短くまとめた英語の文章を最後に配布できたら最高だろう。

(b) Hawaii 出身の ALT の場合

1 枚の pineapple 畑 (plantation) の絵、pineapple の

模型と実物などを教室に持ち込み、pineapple の成長過程の説明があった。果実が熟すると再び茎を出すこと、その上に植え付けしてから 15 ~ 20 ヶ月すると開花し、熟するのにさらに 5 ~ 6 か月要することなどを学んだ。ほとんどすべての生徒にとって新情報だった。たった 1 日の出会いだが、英語を聞いてわかる授業の大切さをわきまえた 2 人が、事前の打ち合わせをした上での T-T は、効果が実感できる授業だった。

(3) 生徒に発言の機会を

生徒にとって、初対面の ALT と話してみたい、自分の英語がどの程度通じるか知りたい、という気持ち強い。この願いを聞き入れてやりたい。しかし、前述の通り、One-Shot の主たる狙いは、「英語を聞いてわかる」ことを重視すべきなので、生徒の発言は一定時間に限るよう計画すべきである。

また、発言しやすいように、事前に発言のための課題を与えておくことよい。例えば、日本人の生活について、ALT の short critical comment を事前に渡し、質問や意見を述べるように課題を出しておく。

(例) My name is John. I am going to visit your class next Monday. This is my comment about your life. If you have any questions or opinions about my ideas, please ask me when we meet.

1. You don't go to school on Saturday. I hear most students spend Saturday simply watching TV and do nothing else. So I believe your government should change their policy and let students go to school on Saturday.
2. You learn too many school subjects. You learn seven or eight subjects. American students study only four or five. (以降略)

4 おわりに

基本的な考え方を ALT と share し、ALT が上記のような具体的な活動内容について理解していれば、T-T は、必ず効果を生むものと思われる。皆様の貴重な実践例をお寄せ下さい。